



子どもが輝き、教職員が健康で働きやすい学校を！

学校づくりアンケートに寄せられた声から

尾北教労が行った「子どもが輝く学校づくりアンケート」へのご協力ありがとうございました。アンケート結果は、現状の課題解決に向け、市町教育委員会への要請や校長会での懇談会に活用させていただきます。アンケートに寄せられた声の一部を紹介します。各課題についてさまざまな角度から考え合いたいと思います。

コロナ禍

3年目の状況と対応

(マスク)

- ◎マスクは、いつまで着け続けるのか。表情を読めないなどコミュニケーションの学び損ねが心配です。
- ◎マスクができない児童がおり、感染予防には限界がある。マスクを外せない、外したがる子が増えている気がする。
- ◎表情がすべて見えないためか、子ども同士のトラブルが多い気がする。しかし、マスクなしも心配ではある。
- ◎人の感じ方は、一人ひとり違います。一律に「マスクをはずさないで」。マスクをしないさい。「とこう指導ではななく、自分で考える絶好の教材と考えて、一

緒に考えられたらいいと思います。

- ◎子どものマスクを外してあげたい。海外は、はずして、WIFIコロナができています。酸素不足での免疫力の低下が心配。人の表情が見えないことでの弊害もあると感じる。黙食も元に戻してほしい。

(子どもへの影響)

- ◎子ども同士がのびのびと関わり合い、学び合う姿がほとんど見られなくなった。
- ◎不登校傾向の子が、不登校にならないか心配。
- ◎給食のあり方。会話できないことによる心の発達影響。
- ◎小1の子たちは、給食当番ができることがうれしいです。放課にじゃれあって遊ぶのが楽しいのです。感染の心配より、子どもたちの大切な体験の機会を奪っていることに目を向けるべきです。

- ◎学校によっては給食の量の調節(増やす・減らす)が感染対策のために行っていない学校もあり、残食も多い。子どもに必要な量が行き届いているか心配。

(教師の負担)

- ◎朝の体温計測忘れは毎日のようにあり、勤務時間前にも関わらず、その対応に追われている。
- ◎コロナ禍で増えた仕事はそのまま、行事等はコロナ禍前に戻りつつある。結果として仕事が増えている。
- ◎今まで時間をかけすぎた行事などの持ち方について考えることができてよい面もある。必要なものは残しつつ、カットできるものや、簡略にできるものは見直せるとうい。
- ◎オンラインの授業の準備と、授業の準備の両方は負担が大きい。
- ◎児童も教師も陽性者が出ていた時は、教員不足がしんどかった。
- ◎家庭連絡や週に何回かプリントなどを持っていくのが、夕方や夜など、家庭の都合に合わせてはならないのが大変です。

(指導上の困難)

- ◎小学1・2年生の授業で、接触を避けて指導することが念頭にあり、言葉や身振りだけで表現する時に難しさを感じる。(ひらがな・漢字の止めや、はらい・身体の動かし方など)
- ◎音楽の歌、けんぱんハーモニカ、水泳指導、体育のマットやペアで行う運動

等できない、又は工夫が必要。

- ◎オンライン授業が、教室で行われている授業の中継になっているが、正直オンラインで受けている側の児童は、ほとんど見ているだけになってしまっている。

- ◎欠席者への学習補充の時間がしっかりと確保できていません。家庭でできるような資料等を作成しても、保護者の協力が得られる場合は使ってもらえませんが、そうでない場合もあります。休みが長引いたとき、登校後だけでは補いきれません。

一人一台タブレット

- ◎持ち帰りは、ケースが大きいし、重さもあるので負担になる。家庭での使い方まで管理できない。
- ◎タブレットは学校保管で学校だけで限定的に使う。新1年生に市が購入して渡して6年間使う。使い回しはしない。
- ◎学校での管理をしているが、家に持ち帰る方が良いのではないか。
- ◎低学年でのタブレットについて、担任一人では対応しきれない。Wi-Fiが突然切れてしまったり、繋がらないところがある。
- ◎突然動かなくなってしまうことも時々ある。
- ◎低学年は、具体的な操作などアナログ的な活動を大切にしたい。
- ◎あくまでもツールとして使用することが大切で、使用することが目的になっ

てはいけない。

◎タブレットを使った授業が増えることで、知識や情報検索が主体となり、子どもたちが思考し、友達と意見を交わして関わり合うことが減るのではないか。

◎タブレットのドリルは、選択を意味なく選んで、合っていたら喜んで終わりの子が多い。考えたり話し合ったり答えを見つけていく楽しさからはほど遠いのがさみしい。

◎どの場面どのように活用していくとよいか、手探りの状態です。教材作りには一から作成するものも多く、時間がかかります。

◎タブレットを使用することにより、実際に書く場面が減るため、集中力の低下が見られると思う。現に学力調査のアンケートでスマホやゲームを使う子どもに学力の低下が見られるというデータがある。タブレットでも同じである。

◎紙に鉛筆で字を書くことの大切さを忘れてしまわないか心配。

◎タブレットに夢中になっている姿を見ると、(授業外で)人との関わる時間ももっと確保できないかと思う。

◎ルールを教えるもルールを守らない児童への指導は少し面倒。

◎タブレットがあることで、欠席(長期)の場合はオンラインをやって当たり前という受けとめ方になっており、それが複数人が重なる、自宅に届けたり

連絡したりで、仕事は以前に比べると増える一方…。

◎使用中の姿勢の悪さ、視力への影響。

(その他)

◎専門的な人員の配置を希望します。長けている人に仕事が集中しており申し訳ない。

◎教科書をタブレットに入れてほしい。机の上にタブレット、教科書、ノートと物が多すぎる。

◎教科書もデジタル教科書になっていくと聞いているが、やはり書き込んだりできる紙の教科書も必要だと感じる。

◎機器の使い方を知ることが大切だと思いが、それを使うために教育の方法が決められてしまうのはおかしい。

◎教育のデジタル化については、民間企業がどんどん参入し、効率優先の教育が進められることで、真に豊かな学びから遠ざけられ、教育格差が拡大する恐れがある。

新たな研修制度

◎押し付け的で形式的な研修が拡がり、真に教師が学び育つ機会が減っていくのではないか。

◎させられる研修ではなく、自ら学びたいと思える研修がしたい。

◎管理的になって、自主的な研修から遠ざかることが心配。

◎私たち教員は、自分にとって必要な学びは言われなくてもしています。必要なのは、学びの自由さとそれをする時間の保障です。

◎形式的なものではなく、職員への声かけやコミュニケーションが大事だと思う。

◎研修履歴の作成が、新たな負担になりそう。

◎履歴を残すために研修しなければならぬということになりそうだと感じます。そのために深い学びにつながる心配。

◎履歴データが管理され、自主性の尊重がされなくなるのであれば嫌です。

◎履歴データの管理・活用について、どんな内容なのか知りたいです。

◎公的研修を1回分、皆が同じものを書くようにすれば負担も減り形骸化できる。研修記録をもとに差別が行われないうようにする必要があります。

◎多忙化解消から逆行し、又、どのようなプラスが教員にあるのが全く見えません。研修がプラスになるようにしてほしい。

◎どのようなメリットがあるのか疑問。校長の意に沿える人を作りたいのか。

(現状の研修について)

◎現職教育をもっと学びのあるものにしてほしい。一人一授業が全然活かされていない。

◎定期的に現職教育が行われるのは、と

てもありがたい。個人での教材研究は、指導書を見たり、同学年の先生に教えていただきながら行えています。個人での教材研究が充実できるような資料などがあるといいなあと思っています。

◎うちの現職教育は管理職の要望による内容の要素が強い。毎年、今年は何がやりたいか話し合いながら作っていく現職教育でありたい。

◎自由に学ばせてほしい。行きたい研究授業があっても、授業や会議の関係で、だめなことが多い。

◎自分が必要だと思う研修が受けられるように支援がほしい。また費用の負担の補助があるとよい。

◎大規模な研修(初任・5年・10年研修など)は原則リモートしてほしい。

◎研修の前に、教師としての生活のゆとりを!!。疲弊した状態で、自主的な研修はできない。



時間外勤務の割り振り

休憩・年休など

(時間外勤務の割り振り)

◎本校では年々取りやすくなる傾向にあると感じています。

◎割振変更簿があることで、勤務時間や休憩時間について意識することにつながっている。

◎割り振りを言い出しにくい、非常に!!。校長はそれを汲み取っているとは思えない。

◎今まで働いていた地区では割り振りがあって平日に取ることができていた。今の職場では、公にそれを伝えてないし、勤務時間外にプール清掃、職員会議、挨拶運動があっても割振変更簿に記録されているかどうか定かではなく取れたこともない。夏休みにもとらせてくれなかった。タダ働きさせられている気持ちになる。

◎修学旅行や自然教室等の学校行事の割り振りはあるが、日常の中で起る時間外勤務について(打ち合わせや職員会議の延長、朝早へのライン引きなど)は割り振りが無いのが現状である。

(休憩時間)

◎昼の休憩は全く取れない。(現実問題として無理)

◎休憩時間はまずもってとれない。勤務時間より前に、朝会の時間設定がされている。会議がある口もの時間授業で、勤務時間後に終了するというのがよくある。

◎校内に大切な子ども達がいる間に、見守る教員が休憩時間もとることはまず不可能であるため、休憩時間が中途半端な16時以降の時間になってしまっているが、それなら休憩時間をなくし、

定時を繰り上げて早く帰れるようにしてほしいと、個人的には思います。

(年休・休暇)

◎年休は長期休業時を中心にしっかり取れている。

◎年休がもっととりやすい職場環境になってほしい。どうしても周りの負担を気にしてしまう。

◎教職員の数が少なすぎて、年休がとりづらい。

◎看護休暇は、子どもの人数によってプラスαしていただけると助かります。

(在校時間記録・その他)

◎時間外在校時間が正確に記録されていないのは問題だと思つ。

◎残業時間月45時間厳守が厳しい。早く退勤する風潮は、ありがたいけれど。

◎勤務時間前に子どもが登校してくる事自体がおかしい。登校を遅らせるか勤務時間を調整し、その分さらに時間外になりそうな仕事量の見直しを県統一で行ってほしい。

◎管理職は「意識の問題」ということを言っているが、意識を変えるだけで、月100時間以上の残業が45時間に収まるのか。いろいろな無理が重なって先生たちを苦しめていると思つ。



教職員の健康問題と多忙化解消

◎児童数36人がとてもきつい。発達障害をもった子ども多いが、ほぼ担任一人に任されている。校内で児童数の差が大きいが、それによる配慮は一切ないこともストレス。

◎発表会の準備に時間がかかる。

◎成績処理が学校でしかできないのに、早く帰らなければならぬ現状に不安、ストレスを感じる。授業準備や教材研究を自宅で行っている。体力、精神的疲労が溜まっている。

◎校務主任をしながら4月当初から担任をもっている人がいます。非常に大変だと聞きました。なんとかしてあげてほしいです。

◎子どもの指導について、いろいろな考え方があり、日々接しているが、どんな思いでそう指導しているか等、先生どうして話し合う時間がない。

◎仕事をやっているけど、普通に時間外労働になってしまふのは、やはりおかしい。仕事量が明らかに多いんだと思う。

◎学校訪問は行政訪問になったはずなのに指導案を強制された。授業を見ての指導はないので必要なのはではないか。現職教育の一環だというが、書くだけでは力はない。やめてほしい。

◎仕事と育児の両立が大変。自分の子どもと過ごす時間をもっととりたい。

(健康に働き続けられるためには)

◎一人の教師の仕事は、必要だからしているのが安易になくせない。だったら、人を増やして一人の仕事量を減らせるように本気で考えてほしい。

◎子どもたち一人一人をよく見て、細かい声かけをしたり、個性や特技をのびしてあげたいが、32名に1教師では不十分で、もどかしい。教員や講師の人数を増やし、少人数のクラスを実現させたい。

◎体調をくずした時に気にせず休めるような教員の増員が必要。

◎まずは先生たちが楽しいと思える雰囲気や、余裕がもてる職場環境をつくってほしい。先生たちの気持ちの余裕で子どもたちへの接し方が変わってくると思う。何でもかんでも仕事を学校が引き受ける時代ではない。

◎せめてもっと空き時間があれば、ゆとりをもって準備をしながら仕事ができる。

◎育休制度のおかげで、大変助かっています。このまま育短の取りやすい環境が増えていくとありがたいです。

※アンケートには、他にも多くの声が寄せられています。組合ホームページに掲載されていますので、ぜひご覧ください。

(「尾北教労」で検索、もしくは、下記QRコードから)

